

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>ヨルダンにおける青少年の健全な育成</p> <p>現地スタッフによる月例報告や質問表調査結果より、青少年らに肯定的な変化が表れていることが確認できており、上位目標の達成に一定の成果が出ているといえる（参照(3)「達成された成果」）。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) コミュニティ参画プログラム (Community Program, CP)</p> <p>当事業前期に CP を修了した 14 歳から 18 歳の年長青少年 17 名（男子 5 名・女子 12 名、以下アドミンユース）に対し、青少年活動の運営に関するトレーニングを実施した。本アドミンユースは、当事業終了後に CP 活動を継続実施していく CP 運営委員会の委員となることから、今期ではセンター運営に関する実地トレーニングに特に力を入れた。具体的には、ユースらは活動に関わる庶務業務（例 生徒登録データ入力・管理）やクラスのモニタリング法といったスキルを学んだ後、当団体の現地スタッフの補佐として実際に日々のユースセンター運営に携わった。併せて、センターで主催される月例行事や幼少年を対象とする夏期講座の企画・運営も担った。さらに、青年高等評議会（HCY、現地提携機関）の地方ユースセンターでの活動にてモニタリングの補佐的役割を務めるなど、実地の場を広げた。</p> <p>②14 歳から 18 歳の青少年 94 名（男 40・女 54 名、計画時想定人数 60 名）が、地域における奉仕活動の目的や意義を学ぶと共に、その活動を自ら主体的に実施していくための企画・実施法についてトレーニングを受けた。トレーニング後は、実際にセンター内や近隣地区で奉仕活動を行った。主な活動例として、孤児院での交流活動や地域の子どもへ向けたイベント実施、地域における問題（路上でのポイ捨てなど）へ注意を促す手作りのビラの路上での配布、地域の公園に環境整備を謳う張り紙やポイ捨て禁止を促すゴミ箱の設置を行った。</p> <p>(イ) 地方ユースセンターにおける青少年活動の活性化</p> <p>当事業前期に実施した能力向上研修に参加した HCY の 8 つの地方ユースセンター（Wadi Al Hour, Sakeb, Fuhays, Al Balqa' a, Kofranja, Tafila, Al Manshia, Ein Ebleen）のスタッフが研修での学びを活かして青少年活動を実践した。実践前には、当団体の現地スタッフがセンターを巡回し、青少年がより主体的に参加できるような活動計画づくりや、効率のよい予算設計について助言を提供した。実践日の当日は、モニタリングを行い、運営方法や青少年に対する接し方について改善指導を行った。実践後は、各センターにおける活動の成果を報告書にとりまとめ、その学びをセンター間で共有した（活動報告書添付）。さらに、実践活動に参加した地方センターの青少年と当団体ユースセンターの青少年の交流活動も行った。</p>

	<p>(ウ) ノンフォーマル教育</p> <p>英語、スポーツ、演劇、音楽、美術、ストーリーの各クラスを週5日、計4学期(一学期三ヶ月制)を実施、856名(男子474名・女子382名、計画時想定人数800名[200名×四学期])が参加した。クラス内では集団行動上のマナーや協調性についてのルールを設定し、それに基づき各講師が生徒の言動を観察、問題行動が見られた生徒に対しては必要に応じ個別対応を行った。特に当事業期中は、センターに通う全青少年が登録クラスに関係なく全員参加できる行事を開催し、日々のクラスメイト以外の同年代の仲間と接する機会を多く設けることで、青少年間の相互理解をさらに促進させることに力を入れた。さらに、作品や青少年らが新たに習得したスキルについては、学期末の成果発表会、独自に作成したマガジン(添付)やHP・ブログ¹を通じ、保護者や地域住民に対して広く発信した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(ア) 地域住民による青少年活動運営へ向けた体制整備</p> <p>週5日のセンター活動日は毎日、アドミンユースらがセンターでの活動運営に携わると共に、月例行事を3回、幼少年向けの夏期特別講座を1ヶ月間、アドミンユース自らが企画し実施した。また、CP参加青少年が随時、センター内外での清掃活動を行うと共に、路上キャンペーンを2回、公園での清掃活動を1回、地域の子ども対象のイベントを2回、孤児院訪問を1回、行った。青少年自身の活動運営面での参加度をさらに強めたことで、彼らの中で責任感や地域貢献に対する意欲が高まったことが確認できた(スタッフ月例報告書より)。また、これらの活動を目にした地域住民からは、青少年が持つ活動運営能力についての認識が改めて深まったとの声が聞かれた。こうした青少年自身の活動運営に対する意識と能力の高まり、および地域からの理解を受け、当事業期にてCP運営委員会(委員:アドミンユース、HCY本部職員、現地スタッフ)を設立し、関係者間で策定された委員会設立文書(添付)に基づき、事業終了後もCPが継続されている。</p> <p>(イ) 地方ユースセンターにおける青少年活動の活性化</p> <p>実践活動を行った8つの地方ユースセンター職員に対して行った質問表結果からは、今事業期での本実践活動を通じて、さらに青少年活動実施の経験を積み、そのノウハウが身に着いたとの声が聞かれた。また、実践活動準備段階から実施後まで、一連の過程を当団体の現地スタッフが直接モニタリングし、必要な助言提供を行った点が高く評価された。当団体の指導により新たにやる気を強めた本ユースセンター職員からは、実践活動終了後も引き続き青少年活動の実施案が継続して寄せられている。こうした職員の積極的な姿勢が当団体ユースセンターと地方の青少年の交流活動の開催につながるなど、地方センターでの活動が活発化した事例が見られた。地方センターの青少年に実施した質問表からも、今後さらに活動の回数や</p>

¹ HP: <http://1001stories.asia/>
 ブログ: <http://knkjordan.blogspot.com/>

	<p>時間を増やすことを求める声が聞かれるなど、活動への満足感の高まりが確認できた。</p> <p>(ウ) 青少年への教育効果及び相互理解促進</p> <p>各学期終了時にセンターの活動に参加した青少年に対し実施した質問表結果からは、センターに参加することで自身の生活や内面において肯定的な変化が起きたことを表す回答が多く見られた。特に、9割において新しい知識やスキルを獲得、8割において日常生活での肯定的変化を実感、8割が異なる国籍や出身地の友人を持つようになったと回答している。具体的な回答例としては、以前は路上で持て余していた時間を自分に役立つ目的のために使えるようになった、という教育的な効果を示唆するもの他、クラスメイトへの接し方を学んだことで他者を敬う気持ちが芽生えた、異なる国籍の友人ができたなど、他者への思いやりや出身が異なる青少年間の相互理解の深まりもうかがえた。</p>
(4) 持続発展性	<p>今事業期で発足した GP 運営委員会が中心となり、HCY へ移譲した資機材を活用して GP の活動を継続していく (資機材の移譲に関する MoU 締結、添付)。活動の進捗、委員会の稼働状況については、当団体の現地チームがフォローアップを継続、当団体本部へ報告を行っていく。さらに、本委員会については、当事業を通じ、研修と実践活動を行った地方のユースセンターとのネットワークを維持することで、今後も協働で青少年活動の企画・実施をめざしていく。また、当事業を通して作り上げた青少年自らが HCY 本部及び地域住民と協力しながら活動を実践していく手法を、地方センターとも共有し、モデル事業として普及することで、次世代を担う青少年自らが青少年活動に主体的に参画する素養をヨルダン国内に広めていく。</p>